

レポート作成日 2025 年 11 月 10 日

JICA 海外協力隊 2023 年度 3 次隊

エクアドル派遣 障害児・者支援

氏名 兼上泰行

1 世界食糧デー ～食で繋がる世界～

2 テーマ

本施設のテーマとして「世界食糧デーを知ろう 食べ物に感謝しよう 日本の食べ物を味わおう」

3 目的

- ・世界食糧デーに関するイベントを行い、毎日、自分たちが食べている食事について考える。
- ・日本の食の文化に触れ、興味・関心を広げるとともに、「エクアドルちらし寿司」を作って食べることで食に感謝する気持ちを育むきっかけ作りをする。

4 活動母体として

世界食糧デー（World Food Day）は毎年 10 月 16 日に行われる国際的な取り組みの一つである。世界の食糧問題や飢餓の撲滅についての意識を高めることを目的としている。

JICA ボランティア ベナン共和国料理隊員の企画「食でつながる世界飯＜飯友の会＞」では、世界食糧デーがある 10 月中に、それぞれの現場や立場から「食」について考える企画を計画し、今回は昨年引き続き 2 回目の開催となった。私の配属先である「コノコトインクルーシブ保護センター」では、「世界食糧デー」にちなんで、入所者 4 5 名および教育スタッフ 1 5 名と共に、食べ物の栄養のこと、世界の貧困の様子、日本食を味わうことなどを通して、2025 年の世界食糧デーのテーマ「食料への権利、より良い生活と未来のために」を意識しながら、今回の活動に取り組んだ。

5 方法

隊員が配属されているコノコトインクルーシブ保護センターの全入所者を対象に、毎日の食べ物への感謝の気持ちを育むための手立てとして、食べ物の栄養について考えたり、世界食糧デーの動画やホームページを視聴したり、日本の箸に挑戦したり、日本の食を味わったりした。

6 主催者 兼上泰行（エクアドル 2023 年度 3 次隊員）

7 実施日時 2025 年 10 月中

8 実施場所 コノコトインクルーシブ保護センター（エクアドル キト市）

9 参加者：隊員 1 名 全入所者 4 5 名 教育スタッフ 1 4 名 合計 60 名

10 具体的な活動内容

集会時に、10月16日の世界食糧デーについて説明。課題学習の時間には、世界食糧デー関連のサイトを紹介し、全入所者および全教育スタッフと一緒に視聴。会食時には、食に感謝する意味を伝えた。日本の箸についての紹介と実際に箸に挑戦。日本の食をみんなで味わった。

11 日本食を味わおう「エクアドルちらし寿司」について

事前に、教育スタッフや厨房スタッフと「ちらし寿司」の由来や作り方などについて話し合い、計画を立てた。エクアドルの食材を使って「エクアドルちらし寿司」を作ることになった。

準備した食材は、エクアドル特産のエビ、レモン、トマト、リンゴ酢、卵、お米、パクチー、キュウリ等。当日は炊きあがったごはんにはリンゴ酢とレモンで寿司めしを作った。エビは殻と背ワタを取り除き、塩、ニンニク、レモンで下味をつけ、火を通した。寿司メシには、角切りにしたトマト、キュウリを混ぜ合わせた。盛り付けは、ごはんには調理したエビ、錦糸卵、刻んだパクチーを飾り付けた。

入所者はもちろん教育スタッフからは、「Muy rico！（とてもおいしい）」といううれしい言葉をいただいた。

12 成果と課題

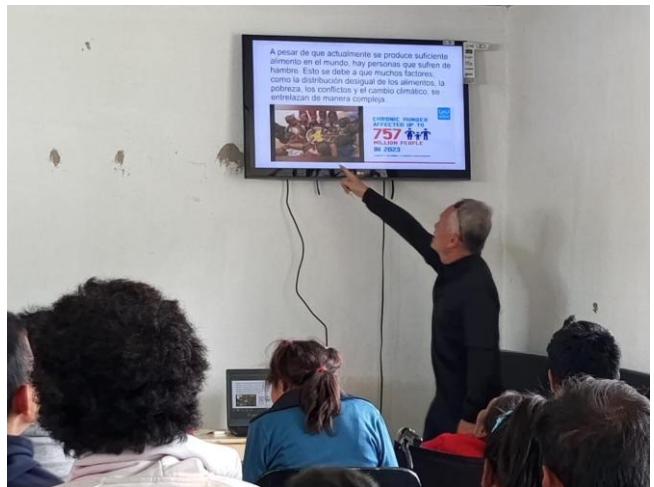
世界では様々な国で、多くの貧困があることを知ることができた。日本の文化にふれるとともに、日本食を施設の全員で味わうことができた。加えて、食への興味・関心も高まった。食べるものに感謝をすること、食べ物を大事にすることについての意識付けのきっかけづくりとなった。

今回の世界食糧デーの行事をきっかけとして、今後も食べ物への興味・関心を高めてほしいと願う。今回は JICA 隊員がリードして実施したが、今後は入所者や教育スタッフが主体となり、食べ物に対する感謝の気持ちを具体的な形にして、世界食糧デーに関する活動で引き継いでいけるといいと考える。

13 活動の様子から



食べ物の栄養について



世界の様子について



ちらし寿司調理



「エクアドルちらし寿司」会食



日本のはしを使ってみよう



豆つかみ競争